

平成28年度 授業改善推進プラン

学校名 豊島区立千川中学校

校長名 紅床 直也 (公印省略)

1 授業改善の取組に対する自己評価

<評価基準>A満足できる Bおおむね満足できる C改善を要する

No.	項目	内 容	評価	評価の説明
1	実績・取組	27年度の「授業改善推進プラン」に基づく取組の成果	A ・ B ・ C	「本時のめあて」と「振り返り」を意識した授業を全員が実践した。また、チューターを活用した学習教室や質問教室の実施により、基礎学力の定着が図られた。学年の継続した取組として、家庭学習ノートを用いて毎日家庭で学習させることにより、学習習慣が確立した。「調べる学習」や「探求的な学習」の実践のためにタブレットPCを活用し、積極的に学習に取り組ませることができた。朝読書や読書記録等の活動を通して、読書への関心を高めることができた。
2	28年度学力調査の結果分析	28年度学力調査の結果分析から見えた成果や課題等について	A ・ B ・ C	<ul style="list-style-type: none"> ・2年・3年の英語において、全国の達成率を上回ったことから、少人数授業による個に応じた指導により、学力向上につながったと考えられる。 ・2年の数学は、昨年度より「関心・意欲・態度」の得点率が高く、興味を持って学ぶことが、今年度の「数学的な見方・考え方」や「知識・理解」の得点率の上昇につながっている。 ・3年の社会における「関心・意欲・態度」の得点率が低く、受動的な学習の姿勢が、「社会的事象についての知識・理解」の得点率の低さに表れている。資料等を読み取り、話し合ったり、発表したりする問題解決的な授業を展開する。 ・今年度は全教員で、生徒が主体的に学び、問題を解決する力を育てる授業実践に取り組む。
3	教員間での課題の共有	教員間で児童・生徒の実態を把握し、課題を共有しているか。	A ・ B ・ C	区学力調査や生徒の授業アンケート及び学校評価の分析により、問題点として「関心・意欲・態度」の低さが挙げられることを全教員で共有している。生徒が学習に興味を持ち、主体的に学ぶために、どのように問題解決型学習を取り入れていくかを研修のテーマとし、今年度は全教科での研究授業を実施する。互いの授業を見合い、課題点を見つけ授業改善につなげ、生徒の意欲を引き出し、深く学ぶ授業作りを行う。
4	説明責任	学校の学力向上の取組や内容が保護者に理解されているか。	A ・ B ・ C	保護者会での学習に関する講話や、学校だよりでの学力調査結果の成果や課題の報告等を通して、本校の学習活動に関する取り組みについて説明している。夏季休業中に個人面談を実施し、学力調査の個票を配布し、本人と保護者に学習の課題と取り組みについての説明と助言を行っている。

2 自校の教科指導における課題と改善の方策

教科	課題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策	関連する調査項目 (3年生)	
国 語	1年生については、すべての項目で全国得点率を下回っており、特に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」が課題である。2、3年生は全国得点率を上回っており、昨年に比べて特に「書く力」が伸びている。反面、「言語についての知識・理解・技能」については、昨年に比べて得点率が下がっているのが課題である。	1年生は学習への取り組み方を考えさせると共に、アクティブラーニングを取り入れた授業の中で、繰り返し学習する習慣を身につけさせたい。また、2、3年生については「言語に関する知識・理解・技能」の得点率が下がっているので、漢字や語句、文法について繰り返し学習させたい。「話す・聞く」についてはアクティブラーニングを取り入れた授業の中で、話し合いや発表の場を増やすことでさらに力を伸ばしていきたい。		生徒が好きな教科として選んだ割合
				自校
				50.7%
社 会	各学年とも、社会的事象への関心が低く、意欲的に学習を進めていく力が弱い傾向がある。このことが知識の定着や理解を深める上での力不足と関わっている。社会的な思考・判断・表現と資料活用の技能は、各学年とも力があることを示している。2、3年生は、歴史的分野に比べて、地理的分野の正答率が低い。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の確認」や学習したことを用いて「説明してみよう」、「どう考えるか？」などの部分に、10分程度の協働的な学習や問題解決的な学習などを取り入れ、学習内容の理解度や定着度を一層高めていく。 ・図や絵、グラフ、統計資料から読み取り、わかったことや考えたことを文章等で表す学習活動を継続する。 		生徒が好きな教科として選んだ割合
				自校
				26.0%
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に技能・知識面では上昇が見られたが、関心や見方・考え方では学年によっては下がってしまった。 ・式や傾きの意味や、証明後に分かることなど、意味を読み取り、考えるような力が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が関心をもつような、導入や発問をやっていく。 ・見方・考え方を養うような、発問、教材を工夫して、開発していく。 ・読み取り、深く考えることを養うよう、言語活動が充実した取り組みを授業内に入れていく。 		生徒が好きな教科として選んだ割合
				自校
				42.5%

理科	<p>1年生は、自然現象への関心・意欲・態度の得点率が全国比-6.5、知識・理解も-7.8と低い。2年生は、昨年度と比較すると関心・意欲・態度で8.2、実験・観察の技能において4.6上昇している。3年生は、男女間で学力の差が大きい。「植物の生活と種類」の知識・理解の数値が全国比-8.7である。</p> <p>領域別の集計に見られる傾向として、2・3年生ともに、学年の早い時期に学んだ内容の得点率が低く、遅い時期に学んだ内容の得点率が高い。</p>	<p>基礎的な知識を定着させるため、既習の内容を現在の学習内容に関連づけて説明したり、章ごとに小テスト等を実施していく。繰り返し学習することで学習の定着を図る。</p> <p>1年生は、興味・関心を引き出すために、より実験や観察を取り入れる。2・3年生では、どのように導き出すか手段を考え、なぜそうなったのか考察するといった科学的な思考が苦手な生徒が多いため、実験後の班学習においてデータ処理と考察する時間を確保する。</p>	生徒が好きな教科として選んだ割合
			自校
			26.0%
英語	<p>2、3年共に全ての観点で全国平均を上回る。2年は「表現」の会話文で、話を続ける力が弱く、「知識」におけるイントネーション問題の得点率が低い。3年は全国得点率で下がっている項目と同じ、「表現」の語順整序問題、「知識」のイントネーションの得点率が低い。「理解」の英問英答も低い。</p>	<p>2年生は音読の中で、イントネーションを確認しながら読むよう指導する。ペアの音読、インタビュ活動を増やし、互いに意識して読ませる。3年生は、文法事項導入時のインタビュー活動や会話練習を通して、文の構成の理解、定着を図る。単元ごとに英問英答を取り入れ、内容読解練習を増やす。特にALTの授業で英問英答を定期的に行う。学期に1回は学年に応じた作文の発表、スピーキングテストを行う。</p>	生徒が好きな教科として選んだ割合
			自校
			32.9%

3 自校の課題と改善の方策

教育課題	課題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策	関連する質問項目(3年生) ※肯定的回答の割合
授業でのICT活用	<p>タブレットPCや実物投影機などのICT機器を使った授業を行うことができた。今後、ICT機器を様々な場面で取り入れ、さらに効果的に活用していきたい。そのためには、教科の特性に合った機器の活用方法の工夫や、教員全体のスキルアップが必要不可欠であり、生徒自身も活用できる機会を増やすことが課題である。</p>	<p>各教室に設置されているプラズマTVとPCを活用し、生徒の視覚に訴える授業を継続していく。実物投影機やタブレットパソコンが各教科で行き渡るように配置の工夫をし、より身近に生徒自身も触れることができる環境をつくり、生徒の興味・関心および知識・理解を深めていく。また、生徒自身が授業の中で、ICT機器を活用し、道具として使いこなす力を身につける授業に取り組む。</p>	電子黒板やタブレットを活用した授業は活用しない授業よりもわかる。
			自校
			58.9%
言語活動の充実	<p>友人との会話中に乱暴な言葉を使っている場面が見られたり、目上の方に対して正しい言葉遣いで話せなかったりする生徒が増えている。自分の知っている語彙が少なく、表現力が身につけていないことが考えられる。</p>	<p>正しい言葉遣いをしなければ、自分の考えを相手にわかりやすく伝えられないので、各教科を通して言語活動の指導にあたる。また、豊かな語彙力を身につけるためにも、発表の場を多く設け、聞いて話して学ぶ授業を取り入れたい。授業外においても、礼儀・マナーとして、言語活動の指導を継続させ、学校の言語環境を整える。</p>	授業の中で話し合ったり、自分の考えを発表したりする機会が多い。
			自校
			72.6%
豊島ふるさと学習の充実	<p>総合的な学習の時間において「課題別学習」の中で「豊島ふるさと学習」を行う(9月)。未来遺産鬼子母神堂を始め、豊島区の文化財から郷土の歴史を学び、ふるさと豊島を愛する心情を育てる。</p>	<p>豊島区教育委員会指導課文化財課のご協力を得て出前講座を開講する。「今」を学ぶ最善の教材を準備したこの授業の中で、アクティブ・ラーニングの視点を生かして、課題解決に主体的に取り組む態度を育てる。中学生として未来にどう関わっていくかを考えさせる。</p>	自分が住んでいる地域が好きである。
			自校
			82.2%
学校図書館の充実	<p>平均読書量は、1年生4.7冊(1,135ページ)、2年生18.9冊(5,308ページ)、3年生33.5冊(9,532ページ)で、よく読書をしている。昨年と比べると、2年生は増加傾向だが、3年生は6.2冊(1,878ページ)減少している。読書量が伸び悩んでいる生徒への働きかけが課題である。</p>	<p>今年度、公共図書館と連携して2年生は2回、3年生は1回、本の団体貸し出しを行い、行事の事前学習に役立てた。読書の働きかけはもちろんだが、図書室や図書館の本は、調べ学習においても十分活用できることを生徒や先生方にアピールし、授業やレポート等でもっと図書室を活用してもらえるようにすることが重要である。</p>	学校や地域の図書館で本を読んだり知りたいことを調べたりすることがある。
			自校
			21.9%
道徳教育の充実	<p>自尊心が十分に備わってなかったり、人間関係が充実していなかったり、規範意識が育っていなかったりする生徒が見られる。生徒全員がしっかりと物事を「考える」ことができる時間を作りたい。「特別の教科 道徳」を意識した道徳教育に取り組む。</p>	<p>読み物や教員による講話を通して、自尊心の芽生えや友人への思いやり、ルールを守る大切さなど、生徒の道徳性をさらに伸ばしたい。また、道徳教育の基本は家庭にもあるということを知り、家庭・地域・学校が連携して、子どもを育てていく体制・環境作りをしていきたい。</p>	人の役に立つことを、自分から進んですることがある
			自校
			67.2%
体力向上	<p>全体的に運動好きな生徒は多いが、基礎体力が十分に身につけていない。また、男子に比べて女子は持久力が劣り、学校全体としても投力が弱い。部活動に入っている生徒も全体的に多くはない。</p>	<p>授業の中で補強運動の工夫や部活動での基礎体力作りのマニュアルを作成し、各部に年間を通して活動させる。また、自宅で簡単にできる運動を紹介し、継続的に運動に親しむ機会を増やし、習慣化できるようにする。</p>	運動することが好きである。
			自校
			74.0%
教員の授業力向上	<p>各種学力調査の結果と授業アンケートにより生徒の学力の定着度を徹底的に把握、分析する。それに基づき、教員一人一人が授業改善に努めるとともに、千川中学校としての指導力向上に向けて、共有した課題を改善できる組織を整える。</p>	<p>来年度の研究発表(「自ら学び、課題を解決する資質の育成」)に向けて、本校の学力に対する課題を徹底的に分析し、改善を図る。そのために研究推進委員会を組織する。解決すべき課題を明確にし、2年間かけて取り組む。アクティブ・ラーニングを活用した主体的な学びを実践する。課題を解決・探求する意欲・能力を育成できる指導方法を研究・実践し、生徒の変容を図る。</p>	学校の授業はよく分かる。
			自校
			83.5%

自由記述（幼小中一貫教育連携プログラム、学力調査とハイパーQUの活用 など）

・「義務教育9年間を見通して、基礎学力の定着を図る～学習習慣の確立を目指した指導の工夫～」を研究主題として、幼小中一貫教育連携プログラムの協議を実施する。昨年度の研究の中で、小中で共通して取り組む指導内容として、学習面では「宿題や提出物」を、生活面では「授業時のあいさつ」や「学習の姿勢」にポイントを絞っており、今年度はその取り組みの中で、学習習慣の確立を目指し、基礎学力の定着を図る。

・1年生は学習支援レベルと生活支援レベルがともに一次支援の生徒が20.5%と全国平均(32.9%)に比べ低くなっている。その分それぞれ二次支援のグループに分散している。2年生は学習支援レベル、生活支援レベルがともに一次支援の生徒が全国平均を大きく上回る結果となった。また三次支援の生徒はいなかった。3年生は、学習支援レベルが二次支援、生活支援レベルが一次支援に全体の32%の生徒が占めている。

学習支援レベル、生活支援レベルがともに三次支援の生徒については一人ひとりの状況を把握し、支援できる手だてを学校全体で共通理解し配慮していく。各学年に存在する学習支援レベル、生活支援レベルとがそれぞれ二次支援の生徒たちは、課題が多いものの表面化しにくいので、さりげなく配慮しながら支援していき、2回目のQ-U調査で結果が出るようにつなげていく。

・今年度も引き続き、D級ポンプ操作訓練やAED操作訓練を計画的に行い、生徒たちの災害時に地域に貢献しようとする意識を高め、技術の向上に努める。

教 科	課 題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、実技活動に積極的に取り組もうとする意欲は感じられるが、音楽記号・用語を理解する能力、活用する技術力が低い。 ・2年生は、実技活動にとっても意欲的に取り組む。鑑賞の授業においては、真剣に取り組むが、考え・意見を発表することに抵抗がみられる。 ・3年生は、読譜・歌唱に関して、基礎的な技術力に差が見られる。鑑賞の授業において、グループ活動や発表等は意欲的に取り組むが、語彙が乏しく、一部の生徒は考えを相手に伝える能力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、音楽記号の意義を感じることができるよう、基礎的な音楽記号を活用した実技指導を行う。実践を繰り返すことにより、理解力を高め、効果を実感できるように指導する。また、表現方法を自ら工夫し、音楽記号を活用させるために、グループごとに適切な表現を考えさせ、活用する技術を高めていく。 ・2年生は、目標や課題を明確に提示し、考えの焦点を定めることができるように指導する。鑑賞活動においては、話し合いにより多様な意見を挙げることで、一人一人の価値観を広げ、理解を深めることができるように指導する。 ・3年生は、導入で階名唱を行い、基礎的な技術の定着を図る。またパートリーダーを中心に、グループ練習時に教え合うよう指導し、全体の達成率の向上に努める。グループ活動の意欲も高いため、意見発表の場も多く設定し、多様な考えを共有させていく。
美 術	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、美術の授業を受ける体勢が出来ていないので、全体的に集中力に欠ける。理解力にも差があり、やる気の差も相まって、課題の進度の差がかなり生じてしまう。 ・2年生は、授業を受ける姿勢が身についていて、全体的に集中力も高い。理解できない時やこのまま進めても良いか不安な時に質問できるようにまで成長した。発想力がやや乏しいので、平均的を目指すのではなく、オリジナルの構想を練る力を伸ばしたい。 ・3年生は、全体的に真面目に取り組んでいるが、集中力が続かない生徒もいる。うまく表現できない時にやる気を失いがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生には、まずは導入をきちんと聞く姿勢を身につけさせる。理解力が低く、スタートから遅れ気味の生徒には早い段階で声を掛け、手順を明確に示す。ただし、生徒自身の力で「理解できた」と思えるように、過度に手を出し過ぎないように留意する。 ・2年生には、自分の表現したいことを明確にさせるために、言葉やイメージ画を描かせることで、発想能力を高めさせる。発想するきっかけを自分で見つけられるように指導する。 ・3年生には、主に技術の向上を目指し、以前よりも出来ることが増えると、作品の表現の幅が広がることを実感させる。それが、やる気の継続につながるようにする。
保健体育	<p>1年生は運動に意欲的に取り組むが集中力に欠ける。自分に適した目標をたて活動することが難しい。2年生は活発な生徒が少ない。集団行動においてリーダーとして指示をだし、学年をまとめる力のある生徒がいない。3年生は運動好きであるが覇気がない。雑である。</p>	<p>全学年、体づくりの運動を授業の中で取り入れ、1年間通して行う。また基礎体力をつけるため10分間走や縄跳びを取り入れて体力の向上を図る。また、ゲーム中心の活動を多くする。1年生は集団行動の規律を徹底し、安全面や思いやる心を育てる。2年生は自己の課題を明確にし、集団で考えて取り組む態度を育てる。3年生はお互い助け合う場面を多くし、達成感を共有できるようにする。</p>
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は能力の差があり、作業をさせても進行度合いにばらつきが目立つ。また、実技を理解するのも時間がかかり、説明方法の工夫が必要である。 ・2年生は一クラスあたりの人数が多いので、個別で関わられる機会が少なくなってしまう。進み具合によって説明するグループを分けるなどの工夫が必要である。 ・3年生は意欲的だが、自ら考えて行動することが課題であるので、毎時間の目標と課題を明確に提示して具体的な授業を心がけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術面での確かな定着をはかるために、基礎的、基本的な部分を特に繰り返し学習する。また説明の際は、理解しやすいように、集中して聞ける時間と、しっかりまとめられた内容で説明する。工具の使い方では分かりやすいプリントや拡大写真を用意する。作業工程やポイントの確認では、工程表の作成など段取りや説明を細かくする。作業工程ごとにグループを分けて説明するなど、進み具合に差があってもきめ細かく見られるようにする。 ・作業時の自己評価を行う。作業の後片付けや、忘れ物の点検、作業の振り返りなどを授業の終わりに行わせる。毎時間授業終わりに感想を書かせるなど、言語活動に力を入れてきたが、工夫した点、大事な点、何に活用できるかなど具体的にまとめるような言語活動の活用を今後強化する。